

橋渡し研究プログラム（大学発医療系スタートアップ支援プログラム） 医療系スタートアップ支援拠点



採択課題名：慶應義塾スタートアップ推進拠点 (Keio Biomedical Accelerator) 構築による
革新的医療シーズの早期社会実装と、大学発スタートアップ・エコシステムの創成

代表機関名：学校法人慶應義塾

補助事業代表者名：慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター・センター長・長谷川奉延

主な連携・協力機関*：首都圏ARコンソーシアム (MARC)、Stanford University、筑波大学、AN Ventures、慶應イノベーション・イニシアティブ、Saisei Ventures、大鵬イノベーションズ、三菱UFJキャピタル、MedVenture Partners、iCONM in collaboration with BioLabs/川崎市産業振興財団、かながわ再生・細胞医療産業化ネットワーク (RINK)、SakuLab/アステラス製薬、さつきアドバイザー、湘南ヘルスイノベーションパーク、Triple Bridge Acceleration Program (TBAP)、三井不動産、ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン (LINK-J)

*アカデミア、VC、その他民間事業者等の順にそれぞれ五十音順で記載

採択拠点

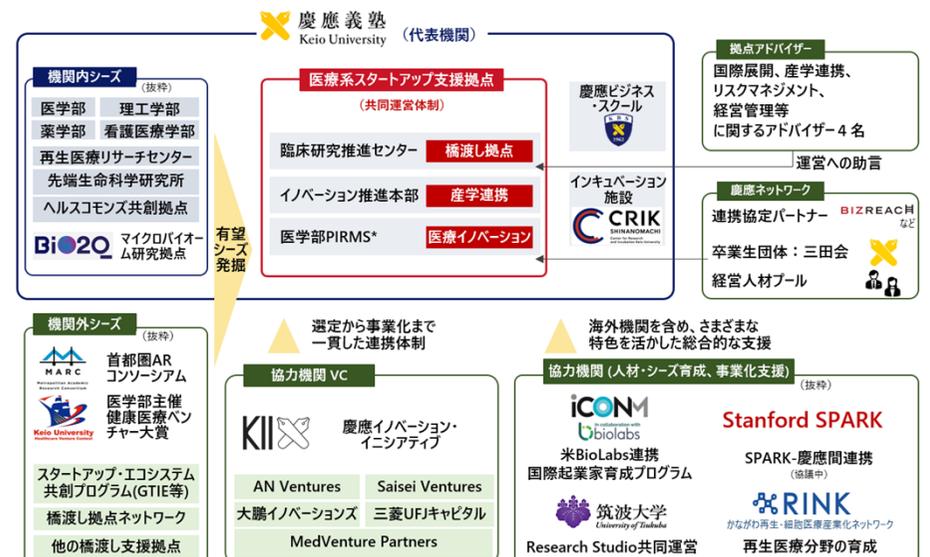


全体概要

橋渡し拠点である臨床研究推進センターと、産学連携部門であるイノベーション推進本部、そして医療イノベーションを担う医学部が共同することにより、医療系スタートアップ支援拠点を構築する。機関内では、慶應ビジネススクールとの連携や、大学病院内に位置するインキュベーション施設であるCRIK信濃町等を活用し、人材・シーズの育成体制を充実させる。機関外とは、慶應イノベーション・イニシアティブ (KII) を含む、早期段階医療系シーズに注力するVCとの協力体制を特色とする。人材・シーズ育成のため、米国BioLabsやStanford大学等を含む実績ある国内外機関と連携することで、国際展開も見据えた支援体制を構築していく。

研究開発課題については、機関内だけでなく、首都圏ARコンソーシアム (MARC:連携機関16施設、連携協力機関8施設)、学外にも開放している健康医療ベンチャー大賞、産学連携部門が連携するGTIE等に加え、橋渡し拠点が構築した国内ネットワークや他の橋渡し拠点との連携を活用しながら、若手人材への支援を含めて、幅広く開発、事業化支援を行っていく。

これらにより、世界に伍する革新的な医薬品・医療機器・再生医療等製品等の事業化を志す大学発スタートアップの継続的な創出を実現していく。



* PIRMS: 医科学研究連携推進センター (Center for the Promotion of Interdisciplinary Research in Medicine and Life Science)